



有識者
インタビュー

ロボットと共創できる未来で 快適な「くうかん」づくりを!!

くうかんの代表取締役を務める有賀博夫氏は、2014年に次世代型自動床洗浄機「i-mop」を販売。さらにはソフトバンクロボティクスと協業し、合併会社「SmartBX株式会社」を設立するなど、多角的な経営手腕で知られる。今回、業界の先を読み解き、先手を打ってきた同氏にインタビューを敢行。清掃ロボットのこれからを尋ねた。

取材協力=株式会社くうかん 聞き手=比地岡貴世

これまでの歩み

—貴社では、早くから清掃ロボットを取り扱い、そのラインナップを着実に増やしていますね。

当社は、人手不足対策としてのロボット導入にとどまらず、「人だからこそこできる仕事に集中できる環境をつくる」ことを目指し、清掃ロボットの導入・運用に関してさまざまな取り組みを重ねてきました。

まず重要視してきたのは、お客様の真のニーズの深耕です。現場の声を丁寧に拾い上げ、業務の効率化や省人化だけでなく、清掃品質の向上

や従業員の働きやすさといった観点からも、ロボットが果たす役割を定義し直してきました。

また、センサー技術に加えて人とロボットを組み合わせた提案も積極的に行っています。IoTセンサーやAIを活用し、清掃のタイミング・頻度を「最適化、することで、清掃スタッフがより付加価値の高い業務に集中できるような環境づくりをサポートしています。単に「決まった時間に決まった場所を清掃する」のではなく、「必要な時に必要な場所を清掃する」ことができるよう進化を続けています。

さらに、ロボットインテグレーター（RI）戦略として、ソフトバンクロボティクス（以下、SBR）との協業を推進（写真12）。製品の販売ではなく、導入後の運用・保守・最適化に至るまで一貫して伴走できる体制を構築し、お客様が安心してロボットを「使いこなせる」支援を行っています。

この取り組みをさらに拡張すべく、業界の未来を見据え、従来の清掃の在り方を「新しい業界のかたち、の創造に挑戦し続けています。

—2022年に貴社とSBRで合併会社「SmartBX株式会社」を設立したことも記憶に新しいです。

SBRとの協業は、同社の高度な技術力と私たちの現場力を掛け合わせた、戦略的パートナーシップとして位置づけています。単なる製品提供の枠を超え、清掃業界全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させるための包括的な取り組みを進めています。

その象徴的な取り組みが、仰っていただいたSmartBXの設立です。

両社間で、ビルメンテナンスおよびファシリティマネジメントの進化を目指し、異業種間での協業モデルとしてこの会社を立ち上げました。

SBRは、RIとして、世界中のロボットやAI技術と人々の暮らしや

株式会社くうかん 代表取締役 有賀博夫

▶1997年にモップ一本から清掃会社を個人創業し、2004年に株式会社くうかんを設立。清掃用資機材の輸入・販売などを担うほか、コンビニエンスストアなどのチェーン企業の定期清掃を得意とする、清掃サービスを北海道から沖縄まで提供を行う。2018年にドイツ製の洗浄ロボット「ADLATUS」を取り扱い、以降、世界30か国以上に導入実績があるサービスロボットのメーカー・Gausium（ガウシウム）の正規販売店として活躍。現在は、さまざまなメーカーと技術協力をを行い、「iXBOT」シリーズとして、くうかんのエッセンスが詰まった清掃ロボットの新しいオリジナルブランドを確立し、普及に努めている。



ビジネスを結びつけ、新たな価値を創造する戦略を行っています。

これにより、600万kmの床清掃データや4,700万回の配膳データなどの膨大なデータを活用して、運用の効率化を図る取り組みを行っています。その清掃データやAI活用知見、そして当社の現場対応力を組み合わせることで、ロボットの本当の価値を引き出す仕組みを構築しています。

清掃ロボットの現状

—有賀さんご自身は、清掃ロボットをどのように捉えていますか？

私は、清掃ロボットを単なる機械や設備としてではなく、「新しい人材のかたち」として捉えています。どれほど最新のテクノロジーやAIが搭載されていても、それを「どう扱うか、によって真の価値が生まれるからです。

実際、清掃ロボットの導入によって、これまでこの業界で必要とされてきた人物像は大きく変わりつつあります。いまや、複数の清掃ロボットをまるでラジコンのように操作したり、現地にいなくても遠隔から運用や指示を完結できたりと、そんな働き方が現実化しています。

つまり、ロボットの進化は「人の

働き方そのものの進化、でもあると考えています。そのため、私はロボットを扱う専任オペレーターの育成（ロボオペ塾[※]）や、遠隔操作を可能にする環境の整備といった、人と機械が協働する未来を強く意識しています。

清掃ロボットは、省人化の手段ではなく、現場に新たな価値と働き方をもたらす「ツール」であり、「未来へのパートナー」でもあるのです。

—ロボットが目ざされ始めた当時は、「敵」として捉える見方もありました。そのあたりの感度は業界全体で変わってきたのでしょうか？

清掃ロボットの販売を通じて、業界全体のロボットに対する関心度は年々着実に高まっていると実感しています。特に「業務の効率化」や「コスト削減」ととどまらず、「働く人の環境をより良くする」「人手不足という構造的課題への対応」といった視点からも注目が集まるようになりました。

導入初期の段階では、「本当に現場で使えるのか？」という懐疑的な声も少なくありませんでしたが、近年では多くの企業が「人手不足、や「作業品質の安定化、といった現実的な課題に対し、ロボットの活用を前向きに検討・導入する姿勢へと変化してきました。

現在では、ロボットは「人を減らすための道具」ではなく、「働く人の負担軽減」「人がより価値のある仕事にシフトするための支援ツール」として、さらには「新たな雇用の創出につながる可能性を持つ存在」として認識されつつあります。こうした認識の広がりこそが、清掃業界の進化と未来に向けた確かな一歩だと考えています。

—現状の清掃ロボットの能力をどう捉えていますか？

現時点での清掃ロボットは、日常清掃業務において十分な性能を発揮しています。特に、広範囲の床清掃や単純反復作業に関しては、人に代わる戦力として既に一定の成果を出しており、現場でも実用的なレベルに達していると感じています。

ただし、清掃業務は単純作業の積み重ねだけではありません。状況判断や環境への適応が求められるシーンも多く、今後のロボットには「より賢くなること」、つまりインテリジェンス化が求められると考えています。

たとえば、「どこを」「どの順番で」「どのタイミングで」清掃するべき

※「使いこなしてもらうこと」を重視し、「ロボオペ塾」と称したセミナーを毎月開催。現場での実践力を高めるための啓蒙活動を継続している。



写真12 過去の「ビルメン・ヒューマンフェア&クリーンEXPO」（写真は2022年）では、SBR、Gausium、i-team Japanと共同出展し、多くの注目を集めた



くうかんがロボットの新ブランドを立ち上げ!!

共用部から専用部、さらには除塵・洗浄といった清掃手法にも対応した製品群を有し、いずれもくうかんのフィールドテストもクリアしている。また、同社ではロボットの運用体制が定着するまで寄り添い、手厚いアフターサービスを展開。24時間365日対応の専用コールセンターもあるため、故障診断、メンテナンス、操作方法まで、オペレーターが随時対応可能！ 製品の詳細は56ページを参照。

かといった判断を、自立的に行えるようになること。さらに、人や他機器との連携をスムーズにこなす協調性の向上も、重要な進化の方向性です。

ロボットがただ命令を実行する存在から、現場の状況を理解し、自ら考え行動する“知恵を持つ存在、へと進化すること——。それこそが、次のステージだと考えています。

くうかんが描く未来

——56ページでも紹介していますが、同社の「iXBOT」シリーズの特徴を教えてください。

弊社が取り扱うロボットは、その高い性能と信頼性において、私たちの現場が求める厳しい基準を満たしたのになります。具体的には、「確実に仕事をこなす安定性」「トラブルの少なさ」「アップデートへの柔軟性」といった点で非常に優れており、実運用においてもその品質の高さが際立っています。

導入後も、現場スタッフや顧客からの評価は非常に高く、稼働実績の積み上げとともに信頼も深まっています。多様な現場ニーズに対応できる製品群を揃えることも、オリジナルブランドを立ち上げた理由の一つです。輸入にあたっては、実証検証

を徹底的に行います。その過程で数十か所に及ぶ改善点を洗い出し、改善を重ねたうえで、はじめて販売へと進めています。

——近年では、セキュリティ面や導入後のバックアップ体制を気にされるユーザーも多いと聞きます。

清掃ロボットの市場展開にあたっては、日本国内で安心してご利用いただけるよう、安全性を最優先に取り組んでいます。具体的には、クラウド管理システム、通信モジュール、各種センサー類を日本製の信頼性の高い部品へと一部機種より順次切り替え、安全基準への適合を図っています。

当社は「安全に使えるロボットの提供」に責任を持ち、国内市場にふさわしい品質と信頼性の確保に努めています。

単にロボットを導入するというだけでなく、社会的な要請となっているビルメン業界における深刻な人手不足や人件費高騰、オフィス需要減衰などの課題に対して、ロボット・DX化による解決策を提案しています。快適な「くうかん」づくりは、人の働き方そのものをに変化をもたらす——。それが私たちの使命です。

——今後の展望はいかがですか？

清掃ロボットは、今後ますます日

常の風景に溶け込み、“誰でも自然に使える存在、として、業界に定着していくと考えています。ロボットと人の関係は「置き換え」ではなく、「共創」です。互いが協力し合い、快適なくうかんを一緒につくっていくそんな共存のかたちが、これからのスタンダードになっていくと信じています。

やがて、“ロボットがいる現場、が特別なことではなくなり、“ロボットと一緒に働くこと、がごく自然な日常になるでしょう。そのときには、人とロボットの境界線すら感じさせない、新たな働き方が当たり前になっているはずです。

私たちは、そうした未来を“待つ、のではなく、自ら“プロデュースする側、でありたいと考えています。AIの進化やロボットの多機能化も含め、すべては「人とロボットが共に価値を高める」ための手段であるべきです。

業界のスタンダードを一步先からつくり出す。その覚悟を持って、これからも挑戦を続けていきます。

取材協力

株式会社くうかん

東京都北区滝野川7-39-7
TEL : 03-5980-7027

